

梶原町のジビエカー導入に伴う 「シカ被害対策及びジビエ活用推進協定」の概要

梶原町、梶原町猟友会、四万十森林管理署が連携し、森林の被害の防止とシカ肉等のジビエ活用を推進

個体数増加による森林被害



写真：日本ジビエ振興協会提供



ジビエ料理で地域の活性化

↓ 小型囲いワナの開発

↑ 植生の回復 食害の減少

↑ ジビエ料理の提供



パトロール



捕獲



小型囲いわなにかかったシカ

シカの
一部
処理

移動式解体処理車
(通称:ジビエカー)

※ 野生獣を現地で一次処理(洗浄・剥皮
内臓摘出)する事のできる特装车

食肉としての有効活用

四国森林管理局が貸し出しを行う
小型囲いわなの特徴

- ※ 狩猟免許及び特別な技術・経験は不要
- ・ 組立：2人で5分程度
- ・ 移動：軽トラック1台で簡単に
- ・ 費用：製作費は1台5万円程度

協定者が連携して捕獲

ニホンジカによる森林への被害

ニホンジカによる森林への被害が年々深刻化

- 下層植生や樹木の樹皮などへの食害により、林地の裸地化や土壌の流出、希少植物等の衰退、樹木の枯損など森林生態系が破壊される。
- 植栽した苗木の葉や茎の皮が食害にあつたため、シカ防護ネットなどの設置が必要となり、森林を育成するコストが高くなる。

① 下層植生の衰退



さおりが原周辺
(H21)

② 植栽木への食害



被害の現状



③ 食害による裸地化



清床山 (H18)

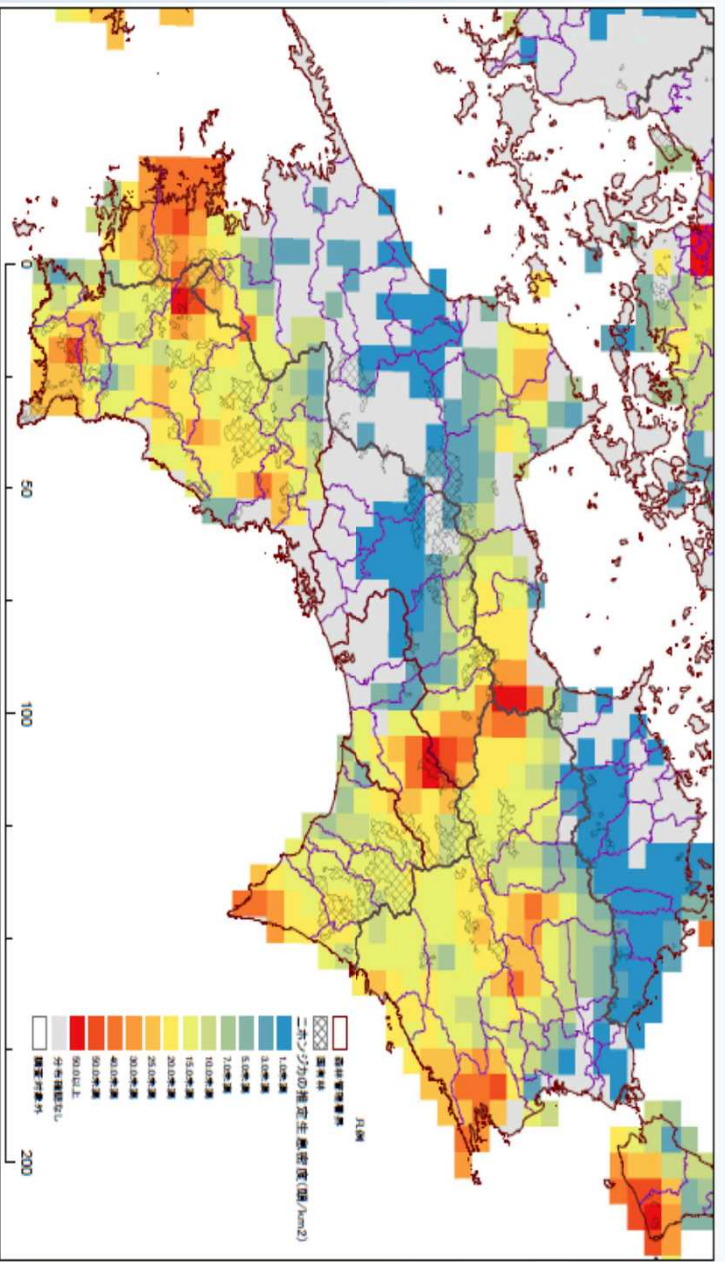
④ 皮剥ぎの状況



三嶺地区 (H19)

四国におけるニホンジカの生息密度分布

- 四国のニホンジカ生息分布は、高知県中部地域から徳島県と高知県南部において生息密度が高い状況。
- ニホンジカは繁殖力が高く、メスジカは毎年妊娠するといわれている。捕獲しないと年率約20%で増加し、4～5年で個体数は倍増。
- 環境省の推計では、四国には平成24年度末で約15万頭のニホンジカが生息。



ニホンジカの個体数調整の取組

- 四国森林管理局におけるニホンジカ被害防止対策（個体数調整）
- 森林被害を減少させるため国有林野内のニホンジカを捕獲し個体数を調整。
 - 捕獲効率の向上や低コストで効果的なニホンジカ被害防止対策のための技術開発・普及へ取り組み。

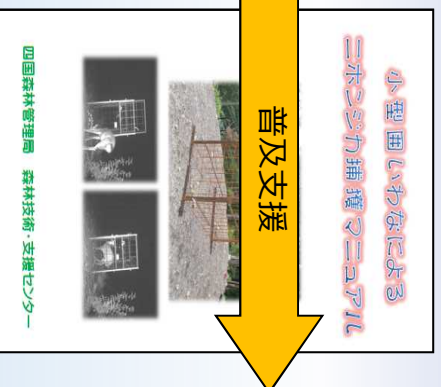
各種シカ捕獲のイメージ



小型囲いわなの普及・支援

森林技術・支援センターではシカの獣害対策として農林業者への普及を目的とした小型囲いわなを開発

■捕獲マニュアルの活用

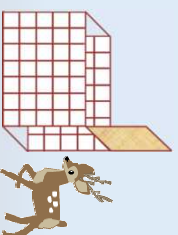
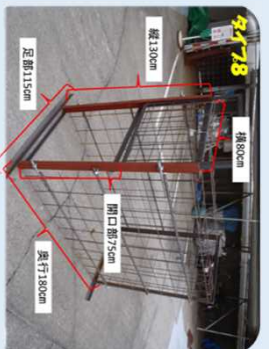
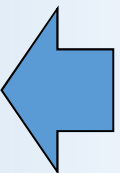


■普及・支援

- 小型囲いわなの貸出及び捕獲技術の支援
- シカに関する情報共有
- 地域と連携したシカ捕獲

小型囲いわなの特徴

- 狩猟免許不要
- 重量58kgと軽量
- 組立て・解体時間が、2人1組で5分程度
- 安価（約5万円程度）



捕獲



捕獲

- 組み立てたまま、軽トラで移動
- 捕獲には特別な技術や経験は不要

大きな雄シカも捕獲可能